



愛知県の  
産地の現状

❁病害虫の発生は、農業生産に深刻な影響をもたらす。例えば斑点米の原因となるカメムシは、愛知県の水稲作付面積27,400haのうち16,438haで発生し、実防除が行われた（R2）。また、施設園芸では土壌伝染性病害の対処に苦慮している。



水稲を加害するカメムシ

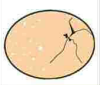


農総試での  
関連研究成果

❁育種用DNAマーカー（耐病性、耐虫、性耐暑性等）の開発とマーカー選抜育種の実践、NGS（次世代シーケンス）解析データの育種活用を目指す取り組みを行っている。

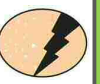


シーケンス作業



解決したい  
困りごと

❁病害虫対策では農薬散布の手間とコストが問題であるとともに、土壌伝染性の病害では効果的な薬剤がなく土壌消毒などの対策しかない場合もある。しかし、環境保全の観点から減化学農薬栽培が推奨されており、農薬使用量の削減は重要な課題である。このため、斑点米の原因となるカメムシ耐性の水稲品種をはじめとして、病害虫に抵抗性を持つ新品種の開発を進めているが、その育成には多大な時間と労力を要している。



解決案

❁多様な遺伝資源のゲノム情報を活かした水稲・花きの新品種開発  
農業総合試験場が保有する水稲や花き（特にカーネーション）の遺伝資源を用いたゲノム情報解析を行い、新品種開発を加速化する選抜DNAマーカーの開発や総合的なゲノム情報を用いた育種システムを構築し、品種開発期間を短縮したい。

担当者：環境基盤研究部・生物工学研究室・都築雅美